

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

（令和 8 年 3 月 6 日 午後 2 時 45 分）

●議長（酒井 聡） 休憩前に引き続き会議を開きます。

通告の 10 峯村崇議員。

- 1 野尻湖の観光案内機能の強化について（12 月会議の続き）
- 2 野尻湖との親しみ方について
- 3 黒姫童話館と童話の森ギャラリーの運営について
- 4 ペット同伴型観光施策について
- 5 ライドシェア導入の検討について
- 6 外国の方の固定資産税未納について

議席番号 2 番、峯村崇議員。

◆2 番（峯村 崇） 議席番号 2 番、峯村崇です。一般質問通告書に従い、一般質問の方をさせていただきたいと思います。12 月議会において、私は野尻湖の観光案内機能の強化や、旧 50 メートルプールの跡地の利用活用について、質問をいたしました。その際、町として方向性を見いだしていく、というような答弁をいただきましたが、あれから 3 か月経過した現在、依然として具体的な動きが見えないような状況が続いております。一方で、野尻湖周辺では民間企業が積極的に投資を進め、新たな動きが次々と生まれています。まさに今、野尻湖エリアにとって大きな転換点が訪れていると感じています。こうした外部の流入は、地域にとって数年に一度あるかないかの貴重な機会であり、本来であれば行政が最もスピード感を持って動くタイミングであると考えています。町としてこの機会をどう捉えているのか、私の中では疑問と危機感が大きくなるばかりです。12 月会議での議論を踏まえ、今回はその後の進捗と、町としての明確な姿勢を伺いたいと思います。まず、初めに今まで議論してきたことを踏まえ、町としての観光の方向性、特に野尻湖観光の方向性をどのように見いだしたのか、町長に伺いたいと思います。

●議長（酒井 聡） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただ今いただきました、峯村崇議員からの質問にお答えいたします。野尻湖周辺の観光のあり方についてでございますが、現在、町の観光審議会を開催しているところでございます。委員の皆様方からは、現状に対する認識、課題、将来的な方向性などについて様々なご意見を頂戴しているところでございます。今後は、そのようなご意見を踏まえまして、今後重点を置くべき基本方針について取りまとめてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） ただ今町長の方からは、観光審議会の方が動いているとのことですが、観光審議会では具体的にどのような議論が行われ、町としてどの点を重視していきたいのかどうか、伺いたいと思います。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 当町の観光産業に関する現状を把握するため、委員及び委員が所属している団体等からヒアリングを実施し、情報の共有から始めました。これらにより、それぞれが感じている強みと弱みを整理共有し、町全体として進めていく観光の方向性について模索をしている段階でございます。この整理共有した内容は多岐にわたりますが、広域的な誘客促進に向けた建設的なご意見の方をいただいております。現在、審議会では観光ビジョンやスローガン及び施策の柱となる基本方針について、議論を重ねていただいております。町の目指すべき指針を内外に明示することで、民間事業者の皆様の事業計画とも整合性を図り、官民連携を深めていければと考えてございます。今後は、これら基本方針に基づいた具体的な施策や、事業を立案する中で予算化の方に繋げていければというふうに考えてございます。なお、審議会におきましては、具体的な事業立てというものは行ってございませんので、その辺をご理解いただければというふうに思います。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） ただ今、観光審議会の方では、現在、基本方針を固めているところだということで答弁をいただきましたが、その基本方針を固めていく中で、審議会の方で議論された内容というものを、もう少し詳しくお伺いできればと思いますが、いかがでしょう。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 具体的な詳細のことまでは、この場では申せませんが、基本的な町の基本となる将来像を描く中で、それをまず一つの、いくつかの柱を据えて、それを基に今度、8 年度以降の中でそれに向けた事業立てをしていく中で、それに基づいた予算に繋げて、観光の振興の方に繋げていければというような流れで今考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） 今、観光審議会の方で内容を揉んでいるというような状況かと思

令和8年第425回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

ますが、具体的なスケジュールを伺いたいと思います。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 審議会におきましては、昨年11月から第1回目を行っておりまして、2月までで3回ほど審議会の方を行ってございます。予定といたしましては、3月中にある一定の指針を出せればというふうに思っているんですが、議論の内容がより深まってきていますので、若干ずれ込むのかなというように予測でおりまして、ちょっと年度を超えるかなという予測でおります。それに基づきまして、町長の方に答申という形の中で出せればなというふうに思っておりますので、遅くとも4月、5月のうちには、とは考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2番（峯村 崇） スケジュールの方ありがとうございます。となりますと、順調に内容が精査されて決まってくるのが、春過ぎぐらいかというような答弁ですが、そうなりますと、予算の方を考えるのは、来年3月に向けたものになってしまうというところでよろしいでしょうか。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 今の基本的な柱を基にいたしまして、それに対する具体的な事業立てというものにつきましては、令和8年度中になろうかと思っております。場合によっては、それに基づいた予算化という部分の中で、予測的には令和9年度以降になるのかなというふうには思っております。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2番（峯村 崇） 観光も今、待ったなしの中だと思っておりますので、スピード感を持って対応していただければなと思っております。よろしくお願ひします。そして、この2026年の観光施策について伺いたいと思ひますが、ずばり目玉はどういったものになるのでしょうか、伺いたいと思ひます。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 令和8年度予算としては、特にここに予算を盛って、大きな目玉事業といったものはございません。県宿泊税の活用であったり、令和9年度の信州DCに向けて、観光審議会での方針をベースに、町の観光振興施策の具体化を進めていく段階でございます。令和8年度の予算編成では、当町のPR素材の作成や、新たな観光

令和8年第425回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

商品の造成を、町内の関係者様と連携により取り組む予定です。さらに、観光協会様に新たな取り組みであるOTA（オンライントラベルエージェント）予約システム導入や、黒姫駅観光案内所の機能強化等を支援させていただければというふうに考えてございます。以上です

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2番（峯村 崇） 今、観光課長の方から、観光協会の方でOTAも進めていければというお話がありましたが、私もOTAを進め、いろんな地域の方々から誘客をしていければいいのかなと思っていますが、その辺のDX化といいますか、その辺を含めたスケジュール感というか方法、その辺はどのように考えているのか、どのように支援していくのかどうかを伺いたいと思います。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 観光協会が導入するOTA予約システムにつきましては、令和8年度の予算編成に向けて、観光協会様の方から具体的な提案がございました。それに基づきまして、観光協会様の方にそれに伴う補助金の方を用意して、手立てをさせてもらえればといった流れでございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2番（峯村 崇） 令和8年度の予算に向けて今動いているんだというところで、そこで観光協会の方に補助金を付けさせてもらいたいというようなところかと思いますが、その補助金というのは、新規で取り寄せるのか、それともどういった補助金を使うようなイメージでいらっしゃるのか伺いたいと思います。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 特に、国・県等の特定財源ではなくて、一般財源の中で補助金の方を支援させていただければという中でございます。以上です

●議長（酒井 聡） 峯村議員、そろそろ通告から段々離れつつあるから、また戻すようにお願いします。峯村議員。

◆2番（峯村 崇） そして目玉が今ないとのことなんですが、この町が動かないことで民間投資との連携機会を逃している可能性について、この機会損失というものを町はどのように考えているのかを伺いたいと思います。

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 機会の損失の認識といった部分でございますけれども、先ほど峯村議員さんの方でも、野尻湖周辺で動いているといった部分がございます。具体的な開発計画等については、まだ承知してございませんけれども、今後の動きがある中で、拙速な町の方の整備によりまして、民間投資と競合したり、また将来にわたり財政負担を強いえる施設を作ってしまうリスクもありますので、慎重に動きを見させてもらっているといった状況でございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員、そろそろ野尻湖の話に戻すように。広く今、観光全般の話になっているので、通告がそもそも野尻湖の関係の話なので。じゃあ、質問を続けてください。峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） それでは次の質問に入っていきたいと思います。次ですが、水戸口公園横の元 50 メートルプールの跡地について、質問に入っていきたいと思います。12 月議会から、私も少し質問させていただいておりますが、その後の進捗、現在の検討段階について伺いたいと思います。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） プールの跡地につきましては、特に進展の方はございません。今後、水戸口公園他、野尻湖周辺の環境整備と合わせて、検討をしてみたいというふうに考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） 進展がないとのことで、野尻湖周辺の整備が進まない理由を、予算不足だと思っているかと思うんですが、近隣の長野市や小布施町、白馬村がなぜあんなに魅力的な公園を作れるのか、それは町の税金だけで作ろうとせず、民間の資金やノウハウを呼び込む PFI という手法を賢く使っているからではないでしょうか。この PFI とは、公共施設の設計や建築、運営を民間に任せるやり方です。町は土地を貸すだけで整備費用は民間が出し、そこでのカフェやショップの収益で運営を回していく。これなら町の持ち出しを最小限に抑えつつ、町の公物を最高の観光拠点に変えられるはずで。そこで PFI 案件を本町で導入したことがあるのか、また検討する余地はないのかどうか伺いたいと思います。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） まず、峯村議員ご指摘の後段の部分、PPP や PFI といった

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

民間手法の導入につきましては、町にあっては今の事例はないというふうに理解してございます。また今、プールの跡地につきましては、前提といたしまして県有地でありますので、形状を変えたいですとか、そこで物を建てるといった場合については、かなり県との調整が必要だということを、まずご理解いただければなというふうに思います。水戸口公園を含めまして、野尻湖畔につきまして、平坦地につきましては、公有地という部分の中でもかなり重要な場所というふうに認識してございます。ただ、今言った民間資金や、経営ノウハウを活用する PPP や PFI の導入については、有力な選択肢といった部分の中では認識の方をしてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） 今、50 メートルプールまたは PFI と PPP といったようなことが、町の方では実績はまだないというようなことで、今後検討する中には含まれているという答弁をいただきました。そして、この 50 メートルプールの跡地の利用について、長野県有地であることを、町に戻すことはできるのではないかとというようなお話も、前の本会議でいただいておりますが、私としては実際この令和 8 年、この予算で何も計上されていなかったことが非常に残念に思っているところです。続きまして、公園についてなんです。ただの公園を作る時代はもう終わったのかなと思っています。小布施町のハイウェイオアシスのように、そこに行けば信濃町のおいしいものを食べられ、白馬のような絶景を楽しみながら仕事や遊びができる。そのような拠点というものが民間と一緒にしながら、そういう拠点ができ上がると、観光にとってもかなりプラスになっていくのかなと思います。というのも、そういったものができれば、そこで交流人口が増える。そうすると、そこで働く方の従業員さんがこの町に住む。そうすると人口が増える。人口が増えれば町税も増える。で、町として課題となっている人口減少というところにもプラスになっていく。やはり、そのようなどんどん繋がっていく一番最初のところかなと私は思っていますので、是非前向きな検討をお願いしていただきたいなと思います。次に、野尻湖との親しみ方についての質問に移っていきたいと思います。町として野尻湖に親しめるとは何を示すのか、どのような定義なのか、その辺を伺いたいと思います。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 定義といったことについては、また後段の方で話をしたいと思うんですが、まず場所といった部分につきましては、一応野尻湖周辺では様々な民間事業者様により、バス釣りやマリンスポーツなどを楽しめる施設がございまして、具体的な場所であったり提供の状況については、目的によって異なると承知してございますが、事業者様個々で所有されている棧橋等の施設からご利用いただけます。また、町が管理している親水公園からも、遊泳やマリンスポーツ等で楽しんでいただいておりますが、無人の公園となりますので、安全にご留意の上ご利用いただければなというふうに思っております。定義といったことにつきましては、特に根拠が示されるものではご

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

ございませんけれども、観光として考えた場合、誰もが安全に湖を眺め、触れられるような状況なのかなというふうに考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） 民間事業者や、親水公園などになるのかなというところで、安全に野尻湖を眺めながら、あとは野尻湖に触れていただくというところが定義なのかなというところをいただきました。その、湖畔に面して親しめる場所というのが、やはりいきなり深いところだと危ない、安全ではないですね。そうなりますと、遠浅になっている箇所というのは町の公園でいきますと、親水公園か水戸口公園のところの第三町営棧橋の横、あの辺が遠浅になっているのかなというようなところで、私は認識しています。ただ、水戸口公園の方は、東北電力の水の引き込み口等があるので、その辺は少し安全面を配慮しなきゃいけないのかなと思いますが、やはり親しむというところでは、子どもが元気に笑顔で湖に足も入れられるような、そういった公園にしていくというのが、親しむというところになるのかなというところで、町の施策にも当たっているのではないかと思っています。ですので、そういった場をしっかりと整備をしていただきたいと思います。はい、これで次の質問に入っていきたいんですが、次は 3 番目として、黒姫童話館と童話の森ギャラリーの運営についてですが、ここは 1 つ目としては、現在の来客数とリピーターの方の把握の方法というものを、少し具体的に伺いたいと思います。

●議長（酒井 聡） 渡辺教育次長。

■教育次長（渡辺美重子） 現在の来客数と、リピーター客の確保の方法について、お答えいたします。まず黒姫童話館です。営業期間は、4 月 5 日から 11 月末までということでございます。令和 7 年度の黒姫童話館総入館者数は 1 万 3,476 人で、前年度比で 1,721 人の減、88.4 パーセントとなりました。次に童話の森ギャラリーにつきましてですが、令和 7 年度、総入館者数は 1 万 125 人で、前年比 1,181 人の減、89.5 パーセントとなっております。続いてリピーターの把握の方法です。現在の把握の方法ですが、入館時、退館時のお客様のアンケートによって、来館回数を確認する自己申告方式で行っております。また、団体の利用につきましては、学校名や団体名の記録により、継続利用を確認しているといった把握の方法になります。2025 年度ですが、入館者 1 万 3,476 人に対しまして回答は 69 件。また、10 年前の 2015 年度は 2 万 2,422 人に対して、223 件ということで、回答数は限定的ではありますが、2025 年度の場合ですと、初めての入館が 53.6 パーセント、2 回目以上が 46.4 パーセントで、10 年前の 2015 年もほぼ同じ割合であり、おおむね半数がリピーターという傾向は、ここ 10 年変わらないということで認識しております。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

◆2 番（峯村 崇） 来客数とリピーターの方の把握方法を答弁いただきましたが、リピーター客の把握方法というのは、お客様のアンケートを基にして自己申告制でいただいている。1 万 3,400 人以上来ていただいている中で、約 69 件というところなんです、それについて、デジタルチケットや会員制度など、データ取得の仕組みの導入の検討というものはあるのでしょうか。

●議長（酒井 聡） 渡辺教育次長。

■教育次長（渡辺美重子） リピーターの増加は、施設にとっても魅力や満足度を知る重要な指標であるというふうに認識をしております。現在、紙媒体でのアンケートの把握ですが、併用して今後デジタル集約も併用しながら、来館履歴を知ること、今後正確な把握に努めてまいりたいと考えています。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） ありがとうございます。是非 DX 化を進めて、詳細なお客様の動向の把握をしていただければと思います。そして運営の方法ですが、指定管理に出す意向があるのかどうかですが、前回同僚議員の方がお聞きしましたので、その伺いではなくて、もし指定管理に出した場合のメリット、デメリットなどの整理が行われていれば、その辺少し教えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

●議長（酒井 聡） 北村教育長。

■教育長（北村康彦） 指定管理に出した場合のメリット、デメリットの検討が行われているかということですが、私個人の中では検討しています。ただし集団として、組織として検討しているかということ、まだ検討には至っておりません。それで、昨日同僚の議員さんからのご質問にお答えしたとおり、今の入館数の減、あるいは施設の老朽化などの課題がある中で、このままでは持続可能な黒姫童話館の運営が厳しいという状況ですので、本当にあらゆる選択肢を否定せずに、指定管理も含めてやっていく必要があるかなど。その中で、来年度は指定管理のメリット、デメリット等も含め、あらゆる選択肢を否定せずということですので、あらゆる選択肢について検討していきたいというふうに思います。しかしながら、昨日の答弁の繰り返しになりますが、大事な部分ですので申し上げますと、黒姫童話館は童話の森事業の象徴として整備された経緯があるというようなことや、ミヒヤエル・エンデ氏から寄贈された貴重な資料の所蔵展示など文化的な価値も高い。それからギャラリーにおきましては、美術品の寄贈寄託者の願いだとか、そういった信頼の上に成り立っているという、文化教育的施設であるというような重要な側面もありますので、その選択肢、様々な選択肢のメリット、デメリットの中に、この辺の何というんですかね、学術的な調査、研究、収蔵品の管理といった専門

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

的な業務の質を維持していくというようなところも、十分加味しながら考えていきたいなというふうに思っています。ただし先ほど来、議員さんおっしゃられているように、こういうものはスピード感が大事ですので、指定管理をすとか、あらゆる選択肢を否定せずに考えていくという時間が、タイムロスとして生じてくると思います。ですので、その中で手法として、手段として今お話があった来客数やリピーター客の把握方法を、観光 DX、デジタル化することについては、費用をかけずにできるということが我々の中では確認されていますので、そういうことをすることによって、明確なターゲットを設定して積極的な発信、誘客活動をする、あるいは魅力ある周遊観光ルートの開発など民間のノウハウを積極的に導入するようなことを検討していきたいと。指定管理をするというのは一つの方法であって、大事にしなければいけないところはスピード感を持って大事にしながら進めていきたいなと思っております。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） ただ今、教育長から答弁いただきました内容、まさに私も一つ危惧しているところでありまして、文化的施設という面と観光的要素という面が、同時にあるような施設かなと思っております。それだけに、やはり魅力的なものであるのかなとも思っております。そこで、どうしても町内の中での役割というものが縦割りになっていっているのは分かるんですが、ここでいろんな面をこれから考えていただくに当たっては、ぜひ横串を刺して、その課を超えた検討というものを町長の方でリードしていただいて、いろいろなご意見・検討を重ねて、結論を出していただき、この地域にとって有意義なものになるような形、もっともっとみんなに知っていただけるような施設にしていだけばなと思っています。続きまして、ペット同伴型の観光施策について、質問をしていきたいと思っております。黒姫や斑尾のスキー場では犬、ワンちゃんという言い方をあえてさせていただきますが、を受け入れるサービスを展開していますが、信濃町全体としてペット同伴型の観光を受け入れていく制度の拡充や、サポートをしていくような意向はあるのかどうかを伺いたいと思っております。少し補足させていただきますと、ペット同伴型のサービスというものは、今日本の中でもかなり受け入れられてきておりまして、質の高い観光客の皆様というものが多く見られますので、そういったところのお考えがあるのかどうか伺いたいと思っております。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 従前より当町にはワンちゃん、いわゆる飼い犬、ペットと同伴宿泊できるペンションのほか、町内有志によって整備されたドックランなど、愛犬家が安心して楽しめる環境が整備されてきました。近年では黒姫スノーパーク様やタングラム様といったスキー場においても、飼い犬と同伴できる体制が強化されており、これらの取り組みに対してお客様から大変ご好評をいただいていると伺っております。このような事例は、他のエリアとの差別化を図る民間事業者による創意工夫の成果であり、

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

顧客目線に立った高負荷価値な商品造成の好事例の一つであるというふう感じております。一方で、これらペット同伴型観光の充実は、民間事業者のアイデアや努力により誘客を実現しているものであり、行政が必要以上に介入したり意見を加えることで関係者にご負担をおかけしたり、予期せぬ影響を及ぼす懸念もございます。そのため、慎重な対応と配慮が必要ではないかと思っております。現時点では、この分野の拡充を促す制度等を設ける予定はございませんが、今後町全体として取り組むべきかどうかにつきましては、個々の事業者様や関係団体様のご意見等を参考にしながら、判断させていただければというふうに考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） ただ今の答弁の方で、町として現在では取り組みに対してリスクをいろいろ考えて、いろいろ検討していかなければいけないというようなところかと思うんですが、私としては、せっかくこの地域のところから民間の事業者が、一から開拓をしてここまで作り上げてきたものがあります。そこは少し攻めの姿勢で、介入という形ではなくてサポートといいますか、この町の強みの一つとして置いていただけないかと、置くことによって町へのメリットもあると思います。そういったことで、ふるさと納税関係も考えている企業もいると私は伺っています。そして、このペット同伴型の観光施策についての、少し踏み入ったことかもしれませんが、現在のペット受入施設の現状の把握といったもの、宿泊や飲食ができるところ、そして体験と一緒にできる場所というものは、今現在町ではそのような情報、現状の把握というものはしているのかどうか伺いたいと思います。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 現状では、町の方では民間のホームページ、ポータルサイト等を情報を基に、宿泊施設を中心に数十軒の受入れ実績があることは把握してございます。しかしながら、飲食店やアクティビティにおける詳細な受入れ条件等までは、細かな実態把握までは至っていないというような状況でございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） ペット同伴型観光についてですが、先ほど担当課長の方がご認識されているような形で、この町から発信できる非常に強みになることかと思っておりますので、是非その辺来年度に向けた今、基本方針を練っているというところですので、是非その辺も加えながら考えていただければと思うのですが、その辺方向性いかがでしょうか。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

■産業観光課長（佐藤宏幸） 現在、策定の方を進めている観光ビジョンの中で、信濃町の強みであります、自然を生かした観光コンテンツ等を含む中で、滞在型観光と掛け合わせた際、ペット同伴観光というのは重要なコンテンツの一つだと考えてございますので、そういった中で今後考えていければなというふうに思っております。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） 是非、基本方針の方に、検討の中に考えていただければと思います。そして次の質問に入っていきたいと思えます。5 番目としまして、以前から私の方で質問させていただいています、ライドシェアの導入の検討についてですが、前回具体的な内容を詰めていければと感じているとのことで答弁いただきましたが、その後の進捗と検討の状況を伺いたいと思えます。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） ライドシェアに関しましては、特に今、制度設計や事業着手といった、特に進捗の方はございませんけれども、令和 8 年度に次期の信濃町地域公共交通計画を策定する予定となっております。この計画見直しにおいては、路線バスやデマンドタクシー、まちなか循環号の現状と課題を整理し、町内の交通体制を将来的に持続可能なものにしていくための検討をすることになります。ご質問いただいているライドシェアについても、町民や来訪者のニーズに応える移動手段の一つというふうに認識の方をさせていただきます。また、長野県内においても実証実験とか、例えば飯山市の方でも実証実験を行っております。そういった情報を得ながら町の方としても、情報の共有を図りながら考えていければなというふうに思っております。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） その後の進捗はないということですが、やはり飯山、隣ですね、白馬村といったところで実証実験を行っていて、もう実際にサービスが始まっているところもあります。やはりかなり好評で、稼働率も大変素晴らしいものになっていると伺っています。これは地域の足であったり、観光客の方の足になったり、ましてやこれからこの町に増えるであろうインバウンドの方たちの足にも、かなり強力なものになるかと思えます。というのも、アプリ自体が世界的に認知されているものですので、それから新しくどうこうというわけではないので、いろんな国で使っているそのアプリを、そのままこの町のこの地域で使っていただけたらというのは、考える以上に強いものなのかなというようなことで感じているところです。そして、進捗がないというところですが、そうなりますと地元の地域の民間事業者、タクシー会社や特定の会社アプリさんとの意見交換程度ではあります、議論その辺の有無というものを伺いたいと思えます。

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 以前、峯村議員のご質問だったかどうかは記憶ないんですけども、Uber（ウーバー）タクシーのような話もあったかと思っています。その中で、地元のタクシー業者さんからも若干興味をいただいて、この先、町の方でもそういったライドシェア的なものも考えているのかという質問がございました。そういった中で、なるべく今後、先ほどの公共交通計画等の中でちょっとまた検討させていただくんですよといったような中での、回答の方はさせてもらっています。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） 実際に、地域の事業者様から具体的な Uber（ウーバー）についてなど、お話があったというところで、是非そういった声を汲みながら、いろんな面に使っていけるかと思しますので、是非そのまま検討の方を進めて、是非この町にライドシェアが来るような形をとっていただければなと思います。次に行く前に最後、ライドシェアというものを地域に入れるためにも、実証実験というものが大切になってくるかと思えます。やはり、その実証実験を基にしながら、どのぐらいの規模感なのか、使い方はどういうふうにされていったのか等を把握して、それから実際のこの地域に目指していけるのかも含め、もっともっと検討材料が深まっていくかと思しますので、実証実験という形で、各他の近隣市町村でやっていますけれども、その辺はもしそういう話が進んで検討になってきた場合、過程としてそうなった場合は、この町でも実証実験をしていく可能性というものはゼロではないというような認識でよろしいでしょうか。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 先ほどの答弁とも重なりますけれども、長野県内でも導入を検討する自治体が出始めております。そういった近隣自治体と、担当者レベルでまずは情報共有を図らせていただいて、その先に公共交通計画等を踏まえた中での、実証実験というものについては、ちょっとまたその先の検討課題かなというふうに考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2 番（峯村 崇） 是非、前向きに検討していただきたいと思えます。続きまして、次の質問に入っていきたいと思えます。6 番目としまして、外国の方の固定資産税の未納について、前回の会議の方で、外国の方の固定資産税が半数程度未納とのことでしたが、その後どのように改善されたのかどうか伺いたいと思えます。

●議長（酒井 聡） 荒井税務会計課長。

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

■税務会計課長（荒井正直） それでは、お答えさせていただきます。固定資産税については、12月25日に第4期の納期期限を迎え、これまで未納であった方には督促と催告を行い、前回の9月議会以降、複数の方に納付をいただいております。現在未納である者は、4分の1程度まで縮減しております。また外国籍の方には、納税管理人の選任をお願いしているところではございますが、9月議会以降新たに3名の方から届出をいただいております。引き続き、納税管理人の選任をお願いしていくとともに、税の公平性の観点から、適正に賦課徴収に努めてまいりたいと思っております。以上です。

●議長（酒井 聡） 峯村議員。

◆2番（峯村 崇） ただいまの答弁で、未納者数がかなり減ってきているというところの答弁をいただきました。結びになりますけれども、この町の未来にとって、今が大きなチャンスであるところは明らかだと思います。その機会を逃さないためにも、町としての決断と行動を強く求めたいと思います。やはり民間が来て、それに対して町が乗っかるという形ではなくて、この町、この地域、この住民の方、この町の事業者さんと考えて、このような形を見出したんだと、僕たちはこの路線で行く、こういった形を出せないと、どんどん方向性は定まらせません、ほかから来たものに対しては、こっちはこうやる、これで追従していった結果、その事業者さんが例えば売却、倒産、いろんなことがあると思います。そうなりますと、また中ぶらりになってしまう、そこを避けるためにも、やはりこの町、ここのところにある強みをどんどん生かして、強い決断と気持ちで作りに上げていかないと、どの道ダメだと思います。ですので、その辺をこれから先、また今回の予算にはつかないのは残念ですが、来年以降しっかりとそういった方向で検討をしていただければいいと思いますので、私の一般質問を終わりたいと思います。

●議長（酒井 聡） 以上で、峯村崇議員の一般質問を終わります。

以上をもちまして一般質問を終わります。

本日の日程は全て終了いたしました。お諮りいたします。委員会審査のため、本日の本会議終了後から3月22日までの間を休会としたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「なし」の声。）

●議長（酒井 聡） ご異議なしと認めます。よって、本日の本会議終了後から3月22日までの間を休会とすることに決定いたしました。

なお、3月16日月曜日は議会運営委員会、3月17日火曜日は議会全員協議会、3月18日水曜日は予算特別委員会が予定されておりますので、ご出席をお願いいたします。また、最終日3月23日月曜日の本会議は、午前10時から開会いたしますので、ご承知願

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（4 日目）

います。本日はこれにて散会といたします、お疲れ様でした。

（終了 午後 3 時 36 分）